



発行：ヒッポファミリークラブ広報室
TEL:03-5467-7041
MAIL: kouhou@lexhippo.gr.jp

ヒッポファミリークラブ News Letter 2019 vol. 1

多言語教育を提唱するヒッポファミリークラブから、
多言語の習得や関連する研究、グローバル人材が育つ環境など、さまざまなトピックをお届けします！

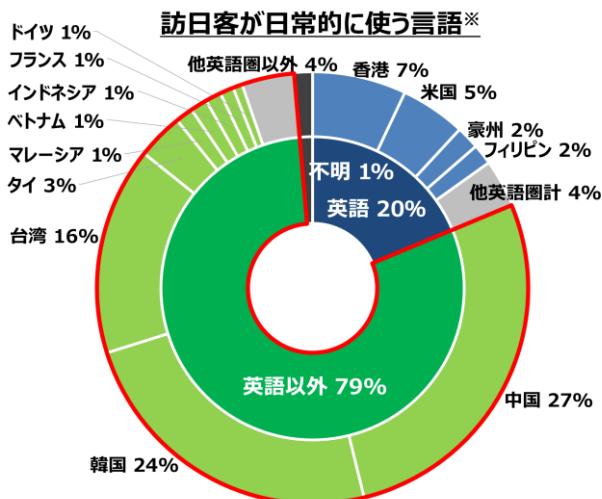
- おもてなしは多言語で。
2018年訪日客 過去最高の3119万人、実は8割が英語圏以外から!?
- 日本で世界で活躍中！
多言語教育で育った若者たちの姿をクローズアップ
- 3月の多言語関連イベント情報

おもてなしは多言語で。

2018年訪日客 過去最高の3119万人、実は8割が英語圏以外から!?

観光庁は、2018年に日本を訪れた外国人旅行者が過去最高の3119万人だったと発表しました。東京オリンピック・パラリンピックの開催を1年後に控え、天皇陛下の譲位に伴う「即位の礼」や、アジア初開催となる「ラグビーワールドカップ2019日本大会」、「G20大阪サミット」など、今年も世界中から日本に注目が集まり、訪日客数も引き続き増加すると見込まれています。

日常生活でも電車や店の中などで外国人と一緒にすることも多く、物理的な距離は縮まったように見えます。しかし実際に外国人と話した経験がある人は意外と少なく、心理的な距離はまだ遠いのではないのでしょうか？



ビジネスや学術研究など、オフィシャルな場面で最も使われることから、英語は世界の共通言語とも呼ばれています。日本でも「とりあえず英語」という認識が一般的です。

しかしながら日本を訪れる外国人旅行者のおよそ8割は日常的に英語を使わない国の出身だと考えられます。実際に周りの会話に耳を傾けてみると、旅行というプライベートな状況ということもあり、英語以外のさまざまな言語が飛び交っていることに気づきます。

※日本政府観光局（JNTO）「訪日外国人旅行者統計（2019年1月16日発表）」をもとにヒッポファミリークラブで推計
香港、米国、豪州、フィリピン、シンガポール、英国、カナダ、ニュージーランド、アイルランドを「日常的に英語を使う国」と想定しています

“多言語化”というと、自動翻訳やAIなどの技術を連想する人も多いと思いますが、心の通ったおもてなしにはやはり人と人が交わす「ことば」が欠かせません。また、英語だけでなくその人が普段使っている「ことば」でコミュニケーションをとることで、お互いの心の距離はぐっと近くなります。いろいろな国や地域のことばを大切にする多言語でのおもてなしは、これからの日本をさらに魅力的にするひとつの手がかりになると私たちは考えています。

日本で世界で活躍中！ 多言語教育で育った若者たちの姿をクローズアップ

ヒッポファミリークラブは1981年の開始以来37年間、多言語教育を提唱し実践しています。地域での多言語活動や国内外でのホームステイを通じた国際交流活動、海外留学を経てこれからのグローバル社会を担う国際感覚豊かな若者たちが次々と育ってきています。

周りのすべてに感謝していつでも自分らしく



昨年秋に初の人事異動。全く違う分野の事業部門で心機一転、チャレンジの毎日です。どんな環境、どんなお客様でも、相手にあわせつつ自分のスタイルで働くことができてるのは、多言語の活動を通じていろいろな人に出会い、培ったコミュニケーションスキルがあつてこそだと、日々感じています。

松尾綾香さん（24歳）楽天株式会社 勤務

多種多様な人に出会えるグローバルな環境に魅力を感じ、2017年、楽天株式会社に総合職として新卒入社。人事面談で「旅行が好き」と言ったことがかない、念願の楽天トラベルに配属される。社内の会議はすべて英語で行われるが、会議資料の添削など上司をサポートすることも。スペインのFCバルセロナからヴィッセル神戸に移籍したアンドレス・イニエスタ選手の入団会見では、同じ支社で働く社員向けにスペイン語から英語への同時通訳を任された。現在は携帯事業部門で新規プロジェクトに携わっている。

<ヒッポファミリークラブとの関わり>

幼い頃から英語に触れさせたいと考えていた母親と共に、生後10カ月でヒッポファミリークラブに入会。10歳（小5）の時に、韓国での国際交流プログラムに参加し、2週間の単身ホームステイに挑戦した。プライベートの旅行で訪れるなど、当時のホストファミリーとはその後も交流を続けている。高校1年の夏から1年間、メキシコの高校に留学。2015年9月の「第2回多言語プレゼンテーション大会」に出場し、大学生・社会人部門で金賞を受賞。

ベルリンにて「踊り」と「ことば」を追求中



多言語の活動では常に新しい「ことば」に出会うので「0から始める」事を日常的かつ無意識のうちにやっていました。子どもの頃から多言語に触れて育ったことが、新しいことにチャレンジしやすい今の自分に繋がっていると思っています。

松尾薫さん（26歳）在ドイツ・ベルリン

2018年1月渡独。ホテルのサービススタッフなどを経て、現在はヘルスケア企業「HECH Europe GmbH」で日本向けのマーケティングと翻訳を担当。美容・健康サプリメントの日本語版オンラインショップ開設に携わる。日本企業向けにフリーランスの通訳者としても働くほか趣味のダンスを活かしレッスンや公演を行っている。「遊び・学び・食」を同時に楽しむ日本文化イベント「Japanight」を主催した経験を持つ。2020年までドイツで就労予定。

<ヒッポファミリークラブとの関わり>

1歳から両親と共にヒッポファミリークラブの多言語活動に参加。8歳（小3）の時に母と一緒にイタリアで初の海外ホームステイを体験する。12歳（小6）で韓国での国際交流プログラムに参加し、単身の海外ホームステイに挑戦。13歳（中1）の時にアメリカでの国際交流プログラムにも参加した。高校1年で1年間ドイツの高校に留学。2017年2月の「第4回多言語プレゼンテーション大会」に出場し、大学生・社会人部門で銀賞を受賞。

ヒッポファミリークラブが1997年から実施している海外高等学校交換留学プログラムの内容や体験を集約した一冊！
「The Multilingual Adventures 高校生、とび出せ 世界へ！ 高校交換留学21カ国2000人の体験から」
遊行社（ゆぎようしゃ）から全国の書店で今春発売予定

推薦コメント「感受性の豊かな高校時代こそ、脳を創る体験は多言語留学で！」 東京大学教授 酒井邦嘉氏（言語脳科学）

3月の多言語関連イベント情報

多言語の習得や関連する研究、グローバル人材が育つ環境などについて理解を深めていただくため、さまざまなイベントを開催しています。

3つ以上の言語を駆使して社会へメッセージを発信する多言語プレゼンテーション大会 第6回 LMP Youth TOKYO (LEX Multilingual Presentation for Youth TOKYO)



日時：3月10日（日）10：00～16：30（開場9：30）

10：00～高校生部門 13：20～大学生・社会人部門

場所：東京ビッグサイト 国際会議場（東京都江東区有明3-11-1）

概要：7カ国から16～25歳の若者33名が参加し、3つ以上の言語を使って自身の多言語体験に基づく世界や社会へのメッセージを発信。高校生部門終了後に中学3年生以下の子どもたちによる多言語パフォーマンスも開催。

教育シンポジウム

「グローバル社会における多言語の可能性」 ～最新の言語研究と教育現場の事例から考える～

日時：3月13日（水）19：00～21：00（開場18：30）

場所：アルカディア市ヶ谷 私学会館
（東京都千代田区九段北4-2-25）

概要：言語学、言語脳科学の研究発表や、学校の外国語教育、家庭で取り組まれている多言語活動の事例報告をもとに、ことばや言語教育、多言語の可能性について共に考えるシンポジウム（定員250名）

<プログラム>

■基調講演

スザンヌ・フリン マサチューセッツ工科大学/多言語獲得研究

「人間の言語能力は無限」

■各界の専門家による研究および事例報告

酒井邦嘉 東京大学大学院総合文化研究科 教授

大和田康之 レッドランズ大学 名誉教授

EngageAsia財団 理事

森田明彦 尚絅学院大学現代社会学科 教授

鈴木堅史 言語交流研究所 代表理事

他、教育現場に携わる教員の方など

特別講座

「ことばと人間を自然科学する」 ～親子で育てよう科学の眼～

日時：3月21日（木・祝）10：30～16：00

場所：すみだリバーサイドホール
（東京都墨田区吾妻橋1-23-20）

<講座内容>

■10：30～12：30

中村桂子 JT生命誌研究館 館長

「ふつうのおんなの子のちから」

■14：00～16：00

酒井邦嘉 東京大学大学院総合文化研究科 教授

「脳に自然なことばの習得とは？」

長野県飯山市の雪原に15を超える国や地域から約700人が集合 ことばと自然を楽しむスノーキャンプ 第6回 多言語・雪の学校 in 飯山 2019

日程：3月27日（水）～3月30日（土） 3泊4日

場所：長野県飯山市／なべくら高原・森の家（なべくら高原柄山）、戸狩温泉民宿 ほか

概要：小学生からシニアまで、日本に住む外国人や、海外からの参加者も交えた約700人が集う多世代・多国籍の交流プログラム。東京の日本語学校に通う留学生や中国の江蘇省蘇州市にある私立学校「太湖大学堂」から小学生45人が参加予定。

